

令和3年北海道胆振東部地震厚真町追悼式 式辞

北海道で初めて震度7を記録した平成30年北海道胆振東部地震から、明日で3年が経とうとしています。改めてこの震災で犠牲となられた全ての御霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げます。最愛のご家族を思いやる暇もなく旅立たれた御霊の無念さと、ご遺族・ご友人の今なお癒えることのない深い悲しみを想うとき、止めどなく痛惜の念が込み上げてまいります。

先ほど、隣接するつたえり公園内に設置した慰霊碑の除幕式を執り行いましたが、その碑には、発災した時刻の3時7分が刻まれています。約10秒にも満たないあの一瞬で、私たちが慣れ親しんだ自然景観は一変し、地域や家族の歴史を紡いだ家屋や生産基盤、森林は脆くも崩れ去りました。未だに信じがたい思いですが、犠牲となった37名の方々とともにこの地で同じ時を生きた証を刻み、関係者の皆様と改めて郷土の明日を切り拓いていく誓いを立てさせていただきました。

全町民が被災者となった胆振東部地震では、これまでの期間を「もう3年或いはまだ3年」と、被災者が置かれている立場によりそれぞれ受け止め方は違うと思います。大切なものを失いながらも、日常を取り戻すため、これまで懸命に努力重ねてこられた皆様にも改めて心からお見舞いを申し上げます。茫然自失の避難生活は3か月に及び、収穫できずに枯れていく農産物に心が折れそうになった方も多かったと思います。応急仮設住宅や被災住宅での暮らしにも不便を強いられたことと思いますが、一方で、国、北海道など関係機関のご尽力により、人里に近い急傾斜地の安全確保、直轄砂防施設、治山施設の建設、浄水場、橋梁、道路などの社会基盤や宅地、農地、灌漑施設などの復旧は目に見えて加速し、被災山林の復旧を除いて、大部分が既に完成し、残る復旧工事も竣工時期が明らかになってまいりました。

昨年末にかけて、災害公営住宅や高齢者福祉施設などが完成しました。市街地から全ての応急仮設住宅が姿を消し、被害が甚大であった北部地区も徐々にではありますが、落ち着きを取り戻しつつあります。すべてが元通りとはなりません、犠牲になられた方々、先達の思いを引き継いで、自然豊かで安全な山間地を復元するため、被災山林の復旧計画策定に北海道の全面的なご協力の下、早期施業着手に向けて取り組んでいるところであります。

未曾有の困難にあっても、私たちは決して復旧・復興への想いを閉ざすことなく、町民一人ひとりの災害に立ち向かう姿勢とご理解ご協力により、ここまで復旧を進めることができました。一方で、被災された町民の皆さんが抱える不安、悩みはそれぞれ違い、心に大きな傷を抱えた方もいらっしゃいます。それぞれの不安を解消し、課題解決のため、関係機関や町民のご協力をいただきながら、被災者に寄り添い誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して、たゆまぬ努力を続けてまいります。

まずは、厚真町の復旧復興計画に基づき、第一に住まい・暮らしの再建として、心のケアの継続、地域コミュニティの再生・活性化の取り組みを、第二になりわい（仕事）の再生として産業基盤の復旧、特に被害の大きかった森林及び林業の再生、またこの震災をきっかけ

とした町外者とのつながり、関係人口の拡大を図り、新たな事業の創出への挑戦を、第3に震災の教訓を踏まえ、避難所や避難道路を見直し、地域防災・減災体制の強化による災害に強いまちづくりを、第4として震災で学んだ多くの教訓と復旧・復興の記憶や経験を町内外で共有し、被災の記憶を継承することで防災意識社会の実現を目指してまいります。

町民憲章には「若人の未来に夢と希望の持てる明るい町をつくろう」と謳われています。開拓の歴史の中で先達者が努力を重ねて築き上げてきた豊かな大地と次代に託した希望を町民の皆さんと大切に共有し、必ずや再建を果たし、その先にある未来においても輝き続ける厚真町の創生を町民の皆さんと一丸となって実現してまいります。

発災以来、捜索活動や応急活動にご尽力いただいた多くの関係機関の皆様、これまでの避難生活を支えてくださったたくさんの支援者、復旧事業を推進していただいている様々な分野のエキスパートの皆さんなど、頑張っている厚真町民の応援団が大勢います。そうした関係者の皆さんに改めて衷心より感謝申し上げますとともに、お寄せいただいた温かい激励の思いに込めて、私たちは震災に埋もれた悲しいまちで終わらせない決意を新たにしています。

昨年に続き、世界中を席卷する新型コロナウイルスの感染拡大は、被災地の復旧・復興の推進にも影を落としています。人類の生命を脅かす歴史的災禍を目の当たりにしながら、日本海溝・千島海溝連動のプレート型大地震にも備えていかなければなりません。これから先も新たな困難に直面すると思いますが、みんなが一人のために、一人がみんなのために協力し合い、都市との共生や地方の安全な空間を活かしてこそ、犠牲となられた方々から託されたふるさと厚真町の復旧から復興へ、復興から創生への歩みが着実なものになると信じています。

本来であれば、ご遺族並びにご来賓、震災尽力者の方々のご臨席のもと追悼式を挙行したいと考えておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大局面においては、やむを得ない状況にありますので、ご来賓の規模を縮小し、自由献花方式を併用しての開催とさせていただきます。関係各位には誠に申し訳ありませんが、ご理解くださるようお願い申し上げます。

結びに、犠牲となられた37名の御霊が永遠に安らかならんことをお祈り申し上げますとともにご遺族の皆様のご平安とご健勝を心から祈念し、式辞といたします。

令和3年9月5日

厚真町長 宮坂尚市朗